

進化する街・人

羽根学区

HANE



新世紀岡崎に伝えたいメッセージ



浅井 駿介 さん(柱町)
羽根小学校
平成27年度4年生

「変わってきた人々の暮らし」で昔のことを勉強しました。一番心に残ったのは「すいとん作り」です。サツマイモのくきと葉っぱを入れました。野さいやにぼしも入れてとてもおいしかったです。

昔の人たちは食べ物をむだにしないで食べていたのが、ぼくはとってもすごいと思いました。

今の羽根学区の良いところは、電車があるところです。いろいろな場所に行けてとても便利だからです。みんなも昔の勉強をして、未来のことを予そうしてみてください。



六城 宏紀 さん(羽根町)
南中学校
平成27年度3年生

僕の生まれ育った羽根学区は、岡崎市の南部に位置し、JR岡崎駅にほど近く、便利で住みやすい町です。岡崎支所やハローワーク、図書室などを備えるシビックセンターや、大型ショッピングセンターがあり、生活環境が抜群に整っています。交通量の多い地区なので「みまもり隊」など地域の方々のおかげで安全な生活ができています。

僕も将来、自分が育ったこの町に、何らかの形で恩返しができるように努力していきたいと思います。



西谷 日菜子 さん
(庄司田3丁目)
翔南中学校
平成27年度1年生

三世代交流授業で、80年前の羽根小学校の姿や学区の様子、当時の遊びなどを地域の高齢者の方々からたくさん教えていただきました。その昔、羽根学区には田畑が広がり、ここから南中を見渡すことができた、と話してくださいました。

それが今では、高層マンションや商業施設が立ち並び、時代の流れとともに、目覚ましい発展に驚きを感じます。

ふるさとを思い、郷土のために貢献しようと、当時の人々が懸命に歴史を築いてこられました。その思いを大切に、私も新たな時代を一步ずつ刻んでいきたいです。



編集後記

JR岡崎駅を中心に急速に進化する岡崎市南部の中心地“羽根”を、後世にどう伝えるか。メンバーの叡知の結集と絆の深まりに感謝。

〔作成委員会〕 麻場ちとせ/芦澤泉/天野俊和/天野由子/石川知啓/伊藤知明/岩瀬久雄/奥田敏春/加藤長保/川淵啓治/小林昭平/斎藤守/佐藤繁記/杉山勤/鈴木和枝/長瀬信義/新美明彦/八田良久/早川良平/堀道彦/牧野好博/丸井豊/宮地和夫/山本英登

〔協力者〕 柴田隆夫/柿本浩(柿本写真館)/岡崎市シビックセンター/イオンモール岡崎

〔参考資料〕 羽根 創立60周年記念誌/新編岡崎市史 総集編/目で見える岡崎・額田の100年

〔表紙写真〕 JR岡崎駅で列車を見送る子どもたち

羽根学区のなりたち

岡崎駅正面と羽根地区の町並み（大正末期～昭和初期）

柱地区から岡崎駅方向を望む。岡崎新駅と南部公会堂が見える（昭和初期）

戸崎地区の日清紡「門前」付近（昭和30年頃）

一八八八年 ■ 明治 21

一八八九年 ■ 明治 22

一八九八年 ■ 明治 31

一九一一年 ■ 明治 44

一九一八年 ■ 大正 7

一九二〇年 ■ 大正 9

一九二一年 ■ 大正 10

一九二八年 ■ 昭和 3

一九三〇年 ■ 昭和 5

一九三二年 ■ 昭和 7

一九三五年 ■ 昭和 10

一九四二年 ■ 昭和 17

一九六二年 ■ 昭和 37

一九七〇年 ■ 昭和 45

羽根村に岡崎駅が開業

戸崎村・羽根村・柱村などが合併し額田郡岡崎村が成立

岡崎駅―殿橋間に岡崎馬車鉄道が開通

岡崎新駅―西尾間に西三軌道が開通

東海製菓が操業開始（後に森永製菓に合併）

日清紡戸崎工場の前身の帝国紡績が操業開始

街路整備に伴い岡崎駅舎が現在地に移転

額田郡岡崎村が岡崎市に合併

省営バス岡多線が開業

岡崎駅南に南部公会堂が竣工

岡崎尋常小学校から分離して羽根尋常小学校が開校

森永製菓岡崎工場が開設

名鉄岡崎市内線・福岡線が廃止

国鉄岡多線岡崎―北野柵塚間が開通し



岡崎駅から遠足に出発する羽根小学校の児童たち（昭和32年）



DATA

□人口	12,418人
男性	6,161人
女性	6,257人
□世帯数	5,254世帯
□面積	2.19km ²

[2016年7月1日現在]

羽根学区の特色

羽根学区は、岡崎市の南の玄関J R岡崎駅東口を正面とし、北側はイオンモール岡崎までの東西約1.5km、南北約3kmを範囲としています。台地端の平坦地にあり、西側は東海道線で区切られ、東側は高根山（現竜美ヶ丘公園・野鳥の森の南麓、小豆坂の丘陵地に接しています）。

当初、岡崎駅周辺を村域とする岡崎村には岡崎尋常高等小学校がありましたが、1935年（昭和10）にここから分離し、羽根尋常小学校が現在地に開校しました。この時、東海道線東側の戸崎、羽根、柱の各一部が学区となっていました。時代が下がって1984年（昭和59）、学区の東側一帯を分離して小豆坂小学校が開校し、現在の学区域となりました。

学区にはJ Rと愛知環状鉄道の岡崎駅があり、名古屋市や豊田市への鉄道アクセスに優れています。また、国道248号、県

発表されます。

これに対し、交通渋滞や騒音による住環境の悪化を心配した地元住民は、計画の変更を求めると、余人の署名を岡崎市役所に提出します。地域の要望を受けたイオン側は、文化ホールの設置や一部施設の閉店時間を午前0時から22時にするなど、計画の見直しを行いました。

こうして2000年（平成12）9月、西武百貨店と130の専門店が入る岡崎市最大の商業施設「イオン岡崎南ショッピングセンター」が誕生しました。その後、開発・運営主体のイオンモールの合併に伴い2007年（平成19）9月から「イオンモール岡崎」へと進化。広く市民に親しまれ、まちに新しい賑わいを創り出しています。



敷地はかつて日清紡戸崎工場だった

イオンモール岡崎の外観



3

イオンモール岡崎

2

岡崎の新しい中心街

羽根学区はこんな学区です

防犯活動



軽犯罪は多いものの、パトロールにより粗暴犯は少ない。2013年（平成25）に総理大臣表彰を受ける

公園



区画整理事業が進み、学区内の公園数は市内でも多い方である

夏祭り



シビックセンター交流広場の盆踊りは学区を越えて参加者が集い、新旧住民でにぎわう

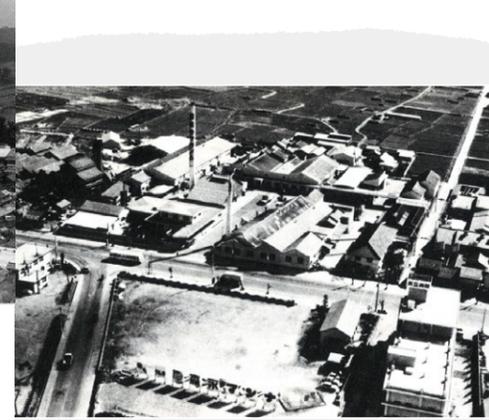
街路樹



学区を主要道路が貫通しているが、街路樹により落ち着いた街並みが作られている



岡崎駅前を一変させた岡崎駅東地区の区画整理事業（平成18年） 左から、岡崎倉庫、東福製粉、戸崎日清。昭和30年頃まで駅前地区には多くの工場や倉庫があった



敷地はかつて森永製菓の工場だった

シビックセンター交流広場



1921年（大正10）に移転した二代目岡崎駅



最初の岡崎駅



現在は四代目の橋上駅舎

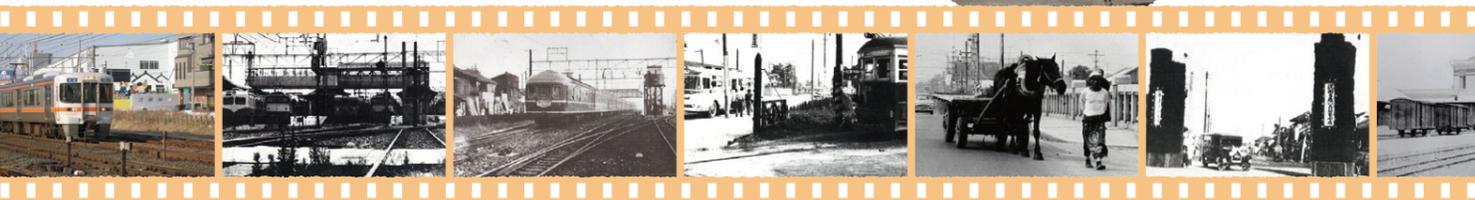


1952年（昭和27）に改築された三代目岡崎駅

- 一九七二年 ■ 昭和47
- 一九七四年 ■ 昭和49
- 一九七九年 ■ 昭和54
- 一九八四年 ■ 昭和59
- 一九八八年 ■ 昭和63
- 一九九〇年 ■ 平成2
- 一九九一年 ■ 平成3
- 一九九五年 ■ 平成7
- 一九九六年 ■ 平成8
- 一九九七年 ■ 平成9
- 二〇〇〇年 ■ 平成12
- 二〇〇二年 ■ 平成14
- 二〇〇六年 ■ 平成18
- 二〇〇八年 ■ 平成20
- 二〇〇九年 ■ 平成21
- 二〇一五年 ■ 平成27

- 貨物営業を開始
- 岡崎柱土地区画整理事業が始まる
- 岡崎羽根土地区画整理事業が始まる
- 学区を縦貫する国道248号が開通
- 学区の一部を分離し小豆坂小学校が開校
- 南部公会堂が解体される
- 愛知環状鉄道が開業
- 岡崎駅の橋上駅舎化が完成
- 岡崎駅東土地区画整理事業が始まる
- ジャスコ岡崎南店が開業
- 羽根小学校開校60周年記念誌が刊行される
- 日清紡戸崎工場が閉鎖
- イオン岡崎ショッピングセンターが開業
- シビックセンター（コロネット）がオープン
- 岡崎駅前の成人映画専門館「南映劇場」が閉鎖
- イオンシネマが開業
- シビックセンターが民間の運営となる
- 羽根小学校開校80周年記念式典を実施

羽根小学校の旧講堂とクスノキ（昭和32年）



開校当時の羽根小学校の想像図。菜の花畑に囲まれていた（画・16代校長杉浦正明氏）

道岡崎刈谷線、「電車通り」などの幹線道路が通じており、自動車交通にとっても利便性が高い地域になっています。

学区は、農業中心の時代から工業地域への発展、さらに商業地の時代を経て、現在は住宅地の様相を呈しており、市内でも急速に市街地化・都市化が進んだ地域と言えます。優れた商業施設、音楽ホールや病院、金融機関などが多く、居住環境には大変恵まれています。地域社会での暮らしの充実が、学区の課題となっています。



学区民、市民の音楽活動の中心 岡崎市シビックセンター

1888年（明治21）に東海道本線の岡崎駅が開業し、羽根学区周辺が発展するきっかけになりました。1898年（明治31）には岡崎馬車鉄道（後の岡崎電気軌道、名鉄岡崎市内線）が、1911年（明治44）には西三軌道（後の名鉄西尾線）が開通し、岡崎のターミナルとなりました。西尾線は戦争中に休止されましたが、戦後はその一部を含めて名鉄岡崎市内線（福岡町―大樹寺）として運行され、岡崎駅と中心市街地を結びました。1962年（昭和37）に廃止されたものの、県道483号は現在も「電車通り」の愛称で市民に親しまれています。また、1976年（昭和51）には国鉄岡多線の旅

二 岡崎駅

1888年（明治21）に東海道本線の岡崎駅が開業し、羽根学区周辺が発展するきっかけになりました。1898年（明治31）には岡崎馬車鉄道（後の岡崎電気軌道、名鉄岡崎市内線）が、1911年（明治44）には西三軌道（後の名鉄西尾線）が開通し、岡崎のターミナルとなりました。西尾線は戦争中に休止されましたが、戦後はその一部を含めて名鉄岡崎市内線（福岡町―大樹寺）として運行され、岡崎駅と中心市街地を結びました。1962年（昭和37）に廃止されたものの、県道483号は現在も「電車通り」の愛称で市民に親しまれています。また、1976年（昭和51）には国鉄岡多線の旅

二 岡崎市シビックセンター

1991年（平成3）から土地区画整理事業が始まった岡崎駅東地区は、1996年（平成8）に建設省（現国土交通省）が推進していた「シビックコア地区整備計画」の第1号に選定されました。これを受け、シビックコア地区北端の森永製菓岡崎工場跡地に岡崎市が建設を予定していた「総合現業事務所」は、国の行政施設が集中する「岡崎地方合同庁舎」に計画変更されます。岡崎市も、隣接地に市南部の交流拠点「シビックセンター」の建設を決定しました。

1999年（平成11）の着工後、公道岡崎刈谷線、「電車通り」などの幹線道路が通じており、自動車交通にとっても利便性が高い地域になっています。

学区は、農業中心の時代から工業地域への発展、さらに商業地の時代を経て、現在は住宅地の様相を呈しており、市内でも急速に市街地化・都市化が進んだ地域と言えます。優れた商業施設、音楽ホールや病院、金融機関などが多く、居住環境には大変恵まれています。地域社会での暮らしの充実が、学区の課題となっています。

客営業が開始されています。

岡崎駅は1987年（昭和62）、国鉄の分割民営化によりJR東海の駅となりました。1990年（平成2）10月には橋上駅舎に改築され、その後デッキなども増築されて近未来的な現在の姿になっています。駅周辺は区画整理や地区整備事業による再開発が進行中で、近年、商業施設の出店や高層マンションの建設などが著しく進展し、鉄道利用者も増加しています。

岡崎駅前まち歩きマップ



A 戸崎神明宮・ふるさとの森
鬱蒼とした宮の杜



B 中電岡崎支店の楠
旧愛知県第二尋常中学校校庭林の楠が立派に成長した



C イオン藤さき古墳広場
外山第3号墳の石室の一部が復元移築されている



D おかざきファーマーズマーケット
地産地消推進のため毎月第1・3土曜に開催



F 東楽園と柱大池
昭和時代の郊外行楽地。現在は喫茶・飲食店として営業

明治から平成に至るまで変貌を続ける岡崎駅周辺。ふらりと歩いてみれば、昔の面影から新しい名所までいろんなものが発見できます。



N 岡崎村道路元標
区画整理後もほぼ元の位置に置かれている



E 記念碑公園(柱公園)
地元では単に「きねんひ」と呼ばれている



G 南中北側の桜並木
南中とイオンの桜がトンネルになっている



H 岡崎市シビックセンター
屋上のデザインは旧南部公会堂のイメージ



I 岡崎倉庫の壁画
区画整理で移転した倉庫に描かれている



J 南乾地踏切
「羽根の大踏切」といわれる



K 名鉄福岡線跡
2016年3月までバス専用道だった



L 服部記念館
古いRC作りで区画整理前からの建物



M 秋葉山常夜燈
地元では「あきやさん」と呼ばれる